



2009 知的財産報告書

Intellectual Property Report

経営理念

生物個体からゲノムにいたる
生命資源の開発を通じて
基盤研究および医学・医療の場に
遺伝情報を提供し
その未来に資するとともに
世界の人々の健康と豊かな
暮らしの実現に貢献する



Contents

ごあいさつ	02
会社の概要	03
会社概要／企業沿革／事業区分と事業内容／ 事業拠点／研究開発拠点	
研究開発・事業戦略	05
中核技術と事業ドメイン／ 研究開発セグメントと事業戦略の方向性	
知的財産戦略	08
知的財産戦略の方針／事業ドメインと知的財産の関係／ 事業戦略、研究開発戦略、知的財産戦略の横断的な取り組み／ 知的財産業務における社外機関との連携／ 知的財産・営業秘密管理等／リスク対応情報	

ごあいさつ

知財は、もとより人が創造するものです。

後藤新平の言葉に、

「金を残すのは下である、

事業を残すのは中である、

人を残すのが上である」

というのがあります。

人を残すには、理念・思想が必要です。

当社経営の基本的考え方は、

理念・思想と情報を共有することにより「人的資源」を保ち、

「人的資本」として活かすことにより、知財の創造に育みます。

2009年5月

代表取締役社長 山村 研一

会社の概況

会社概要 [2009年3月31日現在]

社名	株式会社トランスジェニック (TRANS GENIC INC.)	従業員数	41名
本社	〒860-0812 熊本県熊本市南熊本 3-14-3	業務内容	遺伝子破壊マウス事業 抗体事業 その他事業
設立	1998年4月	連結子会社	株式会社プライミューン
代表取締役社長	山村 研一	関連会社	株式会社イムノキック
資本金	4,855百万円	取引関係	製薬企業, 大学, 研究機関等
決算期	3月31日		

企業沿革

1998年 4月	株式会社クマモト抗体研究所設立 抗体の開発、製造、販売事業開始	2006年 5月	株式会社プライミューンを子会社化
2000年 4月	遺伝子トラップマウス作製技術の基本特許 を獲得、遺伝子破壊マウス事業開始 社名を株式会社トランスジェニックへ変更	6月	癌マーカー特許成立 (国内)
2001年 12月	山之内製薬株式会社 (現 アステラス製薬) および住友化学工業株式会社 (現 住友化学) との遺伝子破壊マウス技術情報のライ センス契約締結	9月	「TG Resource Bank®」を公開、使用権 許諾ビジネス開始
2002年 12月	東京証券取引所マザーズ市場に上場	11月	外資系製薬企業との GANP®マウス技術の ライセンス契約締結
2004年 3月	GANP®マウス技術の基本特許の独占的ラ イセンスを獲得、事業開始	12月	GANP®マウス技術関連特許成立 (米国)
6月	山之内製薬株式会社 (現 アステラス製薬) との新規創薬標的遺伝子関連特許の共同出 願	2007年 4月	タンパク質高発現系技術 I R / M A R 法特 許ライセンス獲得、事業開始
8月	住友化学工業株式会社 (現・住友化学)・ 住友製薬株式会社 (現・大日本住友製薬)と の新規創薬標的遺伝子関連特許の共同出願	10月	遺伝子改変技術相同組換え法の基本特許ラ イセンスを獲得
2005年 7月	神戸研究所を新設	12月	可変型遺伝子トラップ法関連特許が成立 (米国)
2006年 4月	国内診断薬メーカーとの GANP®マウス技 術のライセンス契約締結	2008年 7月	国内診断薬メーカーとの尿サンプルによる がん診断に関するライセンス契約締結
		7月	GANP®マウス技術関連特許が成立 (中国)
		10月	臍臓がんマーカー抗体特許出願
		2009年 2月	新規胆管がんマーカー抗体特許出願
		2月	GANP®マウス技術関連特許が成立 (豪州)
		4月	GANP®マウス技術関連特許が成立 (欧州)
		4月	(株)果実堂と資本・業務提携

事業区分と事業内容

事業区分	事業内容
遺伝子破壊マウス事業	遺伝子破壊マウスに関する情報の独占的・非独占的使用権許諾、 遺伝子改変マウス作製・マウス表現型解析等の実験動物に関する受託
抗体事業	抗体製品の開発・製造及び販売、高親和性抗体の作製技術に関する使用権許諾、 抗体・タンパク質関連の受託
その他	タンパク質生産・精製技術を応用したバイオ研究用試薬の開発および販売

事業拠点

- ◎熊本本社 熊本県熊本市南熊本 3-14-3
- 神戸研究所 兵庫県神戸市中央区
港島南町 7-1-14
- 油日研究所 滋賀県甲賀市甲賀町五反田 1405
- 東京オフィス 東京都中央区京橋 3-9-2
宝国ビル7階



研究開発拠点

当社は、2005年7月に新設した神戸研究所に、研究開発および営業活動の拠点を集約し、研究開発の効率化および事業基盤の強化を図っております。神戸研究所は、「神戸医療産業都市構想」の下、医療関連企業や研究機関の集積が進む神戸ポートアイランド第2期地区に位置しており、地区内における人的・技術的交流が当社事業の発展に大きく寄与しております。

神戸医療産業都市



研究開発・事業戦略

中核技術と事業ドメイン

当社は、遺伝子破壊マウス作製技術および抗体作製技術の2大中核技術を軸に事業を展開しております。

遺伝子破壊マウス作製技術については、大規模かつ網羅的な遺伝子トラップマウス作製に利用される可変型遺伝子トラップ法、ジーンターゲティング法による特定遺伝子の遺伝子破壊マウス作製技術に加え、これらを支えるES細胞培養・生殖工学に関連する技術プラットフォームが構築されています。

抗体作製技術については、GANP 遺伝子改変動物を用いた高親和性抗体作製技術 (GANP®マウス技術) およびDNA免疫法による新規抗体作製技術からなる技術プラットフォームを有しています。また、これに関連する周辺技術として、遺伝子発現、組換えタンパク生産・精製技術からなるタンパク質関連の技術プラットフォームを有し、抗体作製技術を起点として、タンパク質関連の技術プラットフォームのさらなる拡充を図っております。当社は、これらの中核技術をもとに、

遺伝子破壊マウス事業および抗体事業を展開しております。

当社は、これら中核技術を融合させ、事業間の連携・シナジー効果を一層強めながら、より付加価値の高いサービスを提供するとともに、創薬へとつながる研究開発を活発に進めております。

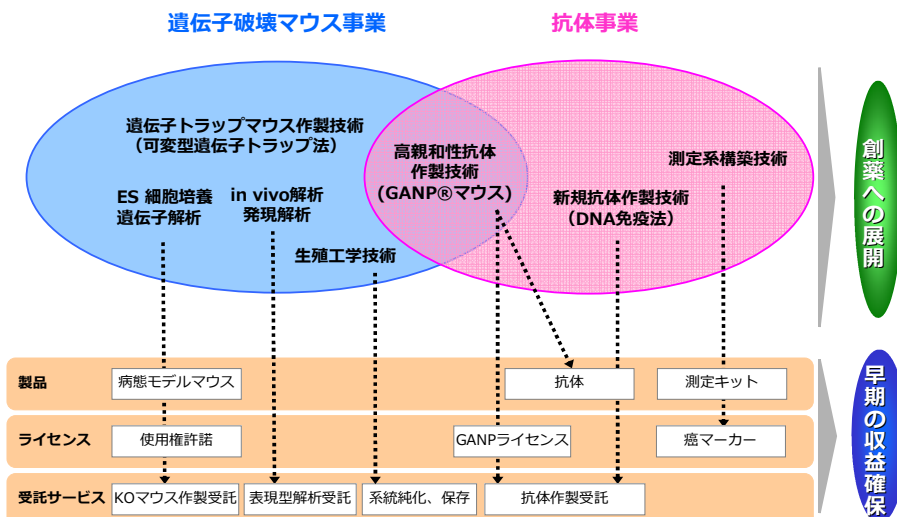
研究開発セグメントと事業戦略の方向性

当社の研究開発は、中長期戦略として創薬ターゲットの探索研究、中期戦略としてバイオマーカーを用いた診断薬の開発および短期的収益に寄与することを目的とした抗体製品開発の3つの研究開発テーマを進めております。

バイオマーカーを用いた診断薬開発では、尿中腫瘍マーカーによる癌診断の開発が最も進んでいるテーマです。また、糖尿病関連ターゲットに対する抗体を作製するとともに、糖尿病関連測定系システムの構築にも取り組んでおります。新規技術開発では、遺伝子破壊マウス事業拡充を目的として、複雑で高度な遺伝子破壊マウス作製や他系統のES細胞導入など遺伝子改

変技術の開発に取り組んでおります。一方、タンパク質関連の技術プラットフォームの一つとして、市場ニーズの高い新規抗体の開発を精力的に進めております。以上のような研究開発テーマに取り組みながら、各事業ドメインにおいて次のような事業を展開しております。

<中核技術と事業ドメイン>



遺伝子破壊マウス事業

当社は、遺伝子破壊マウス事業において、遺伝子破壊マウスおよび遺伝子破壊 ES 細胞についての独占的・非独占的使用権許諾、遺伝子改変マウス作製および解析等の受託などの事業を展開しております。

1) 遺伝子破壊マウスに関する情報の独占的使用権許諾

当社は、遺伝子トラップマウス作製技術により、大規模かつ網羅的に遺伝子破壊マウスおよび遺伝子破壊 ES 細胞を作製してまいりました。アステラス製薬株式会社および住友化学株式会社の 2 社に対して、当社が作製した遺伝子破壊マウスから得られる情報を優先的・独占的に提供する契約を締結しております。本契約に基づく遺伝子配列情報の提供は完了しておりますが、特定のマウス系統に関しては、引き続き遺伝子破壊マウスの継続的使用権のライセンスビジネスを行っております。そして、将来のマイルストーンフィーやランニングロイヤリティを獲得するための知的財産権の確保に努めております。

2) 遺伝子破壊マウスに関する情報の非独占的使用権許諾

遺伝子トラップマウス作製技術により大規模・網羅的に作製した遺伝子破壊マウスおよび遺伝子破壊 ES 細胞のライブラリーを「TG Resource Bank®」として、当社ウェブサイト上にて公開しております。現時点で、およそ 750 系統の遺伝子破壊マウスおよび 2,000 クローンの遺伝子破壊 ES 細胞に関する情報を公開しており、国内外の製薬企業、研究機関などが自由に閲覧することができます。また、2008 年 4 月には、国立遺伝学研究所(生物遺伝資源情報総合センター)が管理運営

するマウス・ラット系統共通検索システム (JMSR) にも情報が登録されました。当社は、これらの系統に関して、非独占的な使用権許諾に基づくマウスの提供を行っております。同サービスは、新規創薬ターゲット探索や遺伝子機能の解明に寄与することが期待されています。

3) 実験動物に関する受託

① 遺伝子改変マウス作製受託

当社は、作製効率の良い ES 細胞を導入し、ジーンターゲット法による遺伝子改変マウス作製技術により、顧客が求める遺伝子改変マウスを受託作製しております。当社は、遺伝子改変マウス作製受託業務にかかる「遺伝子改変技術相同組換え法」特許の実施権を取得しております。これにより、当社の顧客はかかる特許のライセンス許諾を受けることなく、遺伝子改変マウスを使用して遺伝子機能解析や創薬ターゲット探索・評価などの研究が可能です。

② マウス表現型解析受託

当社は、遺伝子機能の解明を目的とした遺伝子改変マウスの表現型解析の受託サービスを行っております。当社が提供する解析サービスは、顧客のニーズに応えた疾患領域別の検査項目での御提案を行っております。

③ 遺伝子改変動物の胚・精子凍結保存等の受託

当社は、遺伝子改変動物の凍結胚・凍結精子の作製およびそれらの凍結保存サービスを提供しております。また、凍結胚や凍結精子からの個体作製、病原微生物クリーニング(SPF 化)等のサービスも行っております。

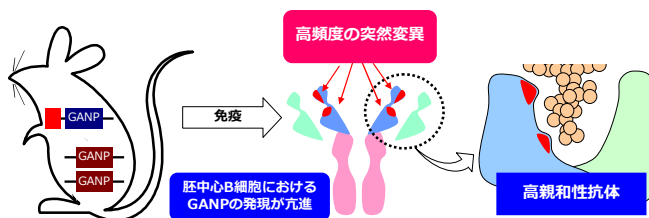
抗体事業

当社は、抗体事業において、基礎研究用試薬としての抗体製品の開発・製造販売、高親和性抗体の作製技術に関する使用権許諾および新規診断用抗体の開発事業を展開しております。

1) 抗体製品の開発・製造販売

当社は、独自技術である GANP®マウス技術を有しております。GANP (Germinal center Associated Nuclear Protein) 遺伝子改変動物を用いた高親和性抗体作製技術 (GANP®マウス技術) は、熊本大学の阪口薫雄教授らが開発した技術です。GANP®マウスは、野生型マウスに比べ、抗体を産生細胞である B 細胞で GANP 遺伝子の発現が亢進し、GANP タンパク質の働きにより、抗体の変換部位領域に突然変異が高頻度起こります。その結果、高確率で高親和性抗体や高特異性抗体を作製することが可能となる技術です。本技術の優位性は、通常の抗体作製手法に比べ、親和性の非常に高いモノクローナル抗体の作製が可能であり、抗体医薬、診断薬、研究試薬、抗体を用いた各種測定系などの開発に広く応用できる点です。

<GANP®マウスを用いた高親和性抗体作製技術>



当社は、本技術を活用し、タンパク質機能解析に有用な抗体を開発、製品化し、基礎研究用試薬として提供しております。抗体作製では、特に GPCR (G protein coupled receptor : G タンパク質共役受容体) 抗体の製品開発を精力的に進めております。GPCR は、細胞膜に存在し、外部からの情報を受け、様々な細胞機能の調節に重要な役割を果たしています。GPCR に結合する生理活性物質は、有用な創薬ターゲットと期待され、製薬メーカーや研究機関での重要なテーマとなっております。この GPCR に結合する生理活性物質の探索には、GANP®マウスで作製された GPCR 関連抗体が有用なツールとなります。

その他にも癌・メタボリックシンドロームなどの市場性の高い抗体製品のラインナップを充実させるべく、新たな抗体製品の開発を進めております。

2) 高親和性抗体の作製技術に関する使用権許諾

当社は、抗体医薬や診断薬を開発する製薬企業、診断薬メーカーなどに対して GANP®マウス技術ならびにそれらの技術で開発した抗体についてライセンスビジネスを展開し、現在、複数の診断薬メーカーとの間で GANP®マウス技術に関するライセンス契約を締結しております。

3) 新規診断用抗体の開発

当社は、研究機関との共同研究において、新規腫瘍マーカー候補物質の抗体を GANP®マウス技術により作製し、網羅的に評価および探索を行い、新たな診断用抗体の開発に取り組んでおります。

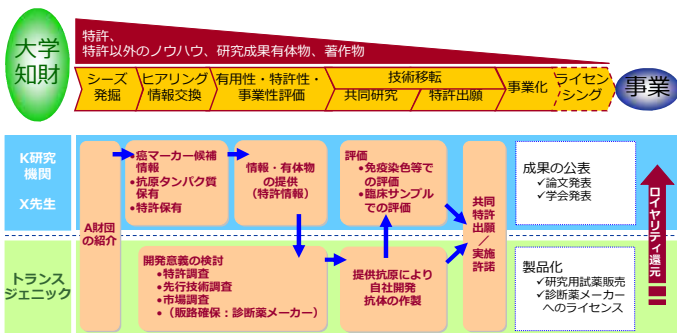
知的財産戦略

知的財産戦略の方針

当社は、創薬ターゲットを探索している製薬企業に数多くの有益な研究ツールや創薬シーズ、技術情報、知的財産を提供することにより、パートナー企業とともに医薬品開発に貢献したいと考えております。

当社は、大学・研究機関等との共同研究を積極的に行い、当社事業とシナジー効果が発揮でき得る技術を、研究開発の早期段階において導入することに努めております。研究開発の早期段階での技術導入により、その技術が公開される前に確実な知的財産権を確保するとともに、豊富な実験データに裏付けられた強い特許、将来のマーケティングを見据えた特許網を構築すべく、研究開発、事業戦略と融合させた特許戦略を展開しております。さらに、導入した技術を付加価値の高い技術や知的財産に育て、これらの技術から生まれた独自性の強い製品・サービスを提供するとともに、知的財産、技術情報のライセンスビジネスを展開しております。知的財産のライセンスについては、製薬企業、診断薬メーカーなどの開発・事業のステージにあわせたマイルストーンを設定することにより、複数の事業ドメインを対象としたハブアンドスポークモデル型のライセンス契約とするなど、戦略的な知的財産の活用を努めております。

<当社の特許化・事業化スキーム>



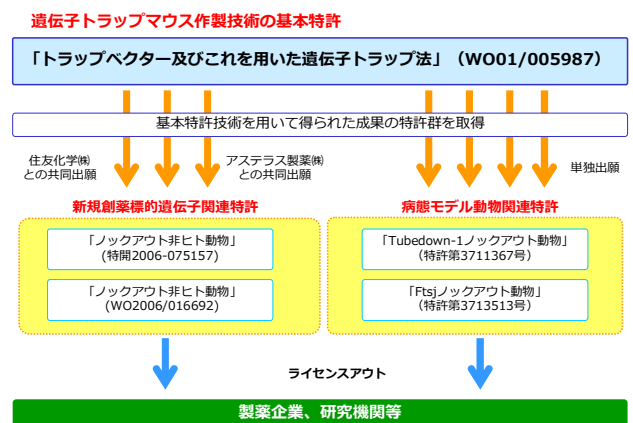
事業ドメインと知的財産の関係

遺伝子破壊マウス事業関連

可変型遺伝子トラップ法による遺伝子トラップマウスの作製技術は、財団法人熊本テクノポリス財団(現・財団法人くまもとテクノ産業財団)から2000年に当社に譲渡され、現在、国際出願(WO01/005987)によりカバーされております。

可変型遺伝子トラップ法により作製された遺伝子破壊マウスから得られる遺伝子機能情報を、アステラス製薬株式会社ならびに住友化学株式会社に対して独占的に提供し、新規の創薬標的遺伝子関連特許(特開2006-006151、特開2006-075157、WO2006/016692)の創出へと結びつきました。今後、これらの発明をもとに新薬や新規スクリーニング方法の開発が期待されます。

<遺伝子破壊マウス事業関連>



さらに、自社独自の研究においても、新薬開発のための病態モデルに利用できる tubedown-1 遺伝子や Ftsj 遺伝子が破壊されたノックアウトマウスに関する病態モデル動物関連特許(特許第3711367号、特許第3713513号)を取得いたしました。ジーンターゲット法による遺伝子改変マウス作製技術は、パストゥール研究所(フランス)が保有する相同組換え法による

遺伝子改変技術に関する基本特許(特許第 3059481 号、特許第 3298842 号、特許第 3298864 号)によりカバーされております。当社は、本発明のサブライセンス付き独占的实施権を保有するセレクティス社(フランス)より、非独占ライセンスを取得し、当該技術による遺伝子破壊マウス作製受託サービスを製薬企業や研究機関に提供しております。

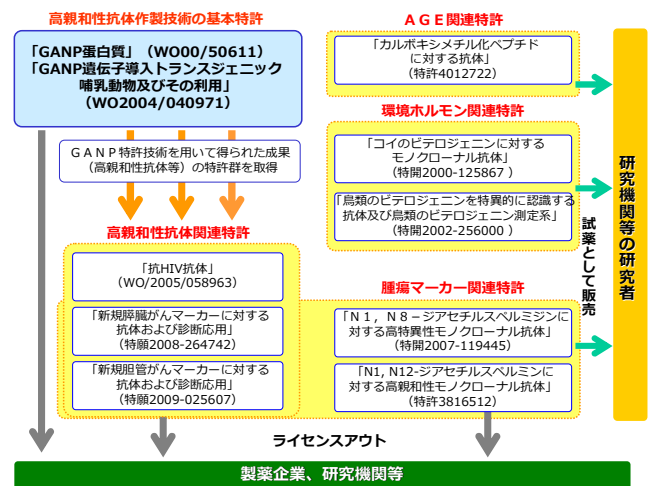
抗体事業関連

GANP®マウスを用いた高親和性抗体の作製技術は、株式会社イムノキックが保有する国際特許出願(WO00/050611 および WO2004/040971)によりカバーされております。当社は、株式会社イムノキックより本発明のサブライセンス付き独占的实施権を取得し、社内で新規抗体の作製や既存抗体の高親和性化に利用するとともに、当該技術の製薬企業や研究機関等に対するライセンスビジネスを推進しております。

当該技術につきましては、2008 年 7 月に中国(ZL200380102832.4)、2009 年 2 月に豪州(AU2003277620) および 2009 年 4 月に欧州(EP1559318)にて特許が成立しております。今後は、ニーズの高い新規の抗原に関しては GANP®マウス技術により作製した抗体を権利化するとともに、既存の抗原に関しても高親和性化された抗体に関する特許権の獲得を展開しております。また、様々な分野で利用される抗体製品の開発と特許権の取得を進めております。自社開発の成果としては、腫瘍マーカー関連として、ジアセチルスベルミンに関する高特異性モノクローナル抗体に関して、2006 年 6 月に日本国内において特許を取得いたしました(特許第 3816512 号)。本特許に関しては、モノクローナル抗体を複数の診断薬メー

カーに有償提供するとともに使用権を許諾しており、現在、複数の診断薬メーカーが本発明を利用した診断薬の開発を進めております。さらに、2008 年 10 月に国立がんセンターと、新規膵臓がんマーカーに対する抗体およびその診断応用に関する特許を共同出願しております。2009 年 2 月には国立大学法人熊本大学と、新規胆管がんマーカーに対する抗体およびその診断応用に関する特許を共同出願しております。将来の診断薬開発へ向けて、積極的に研究機関と共同研究を進めております。また、環境ホルモン関連では、抗ビテロジェニン抗体の開発に成功しており、基礎技術は特許出願(特開 2000-125867 および特開 2002-256000)によりカバーされております。本技術は、環境ホルモンの指標物質であるビテロジェニンに対する抗体に基づくものです。ビテロジェニンは、本来メスの体内にのみ存在するタンパク質ですが、環境ホルモンに曝露されることで、オスも体内でビテロジェニンを生成するようになります。このため、本技術によるビテロジェニン測定は、環境ホルモンの生物への影響を評価するために有用です。

<抗体事業関連>



特許・ライセンスの事業への貢献

当社特許の事業への貢献度は高く、当社は保有特許の極めて高い実施率を保持しております。また、積極的なライセンスイン、ライセンスアウトを通じて、直接的な収入の増加のみならず、事業の優位性を図り、将来を見据えた中長期的な知的財産戦略を実行しております。

事業戦略、研究開発戦略、知的財産戦略の横断的な取り組み

研究開発および知的財産組織体制

当社は、研究開発部、企画部、経営戦略部を設けております（図参照）。

研究開発部は、実験動物受託サービス部門、抗体作製・新製品開発部門、抗体開発・測定法開発部門の3つのグループからなり、相互協力のもと技術開発、製品開発を進めるとともに、新規技術導入や創薬を目的とした研究開発を進めております。

企画部は、営業グループおよび製品販売グループを中心に営業活動を行うとともに新規技術調査や学術調査、業界動向調査を行っております。

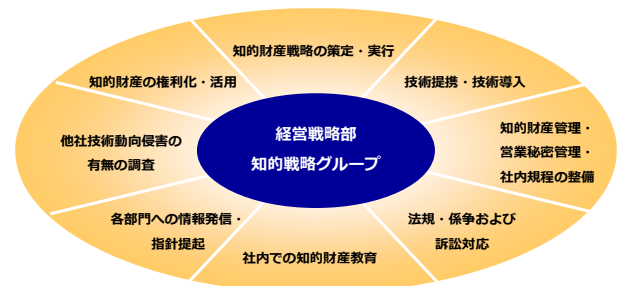
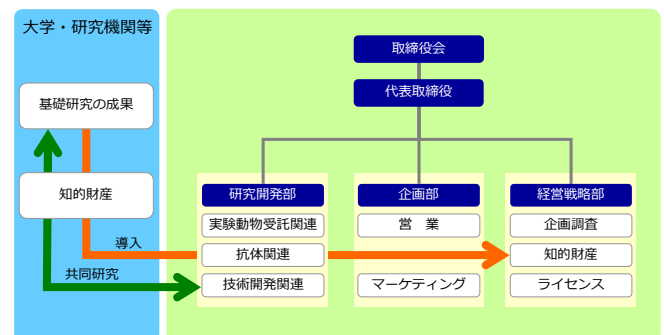
経営戦略部は部内に知的戦略グループおよび情報システムグループからなり、知的財産戦略の策定・実行から自社で創出された技術の権利化や活用、さらに他社の技術動向の調査や侵害の有無、技術提携や知的財産の戦略的な導入等、知的財産に関する業務全般を扱っております。また、社内での知的財産教育にも努めており、社内各部署への自社・他社の知的財産関連情報の発信、戦略的な知的財産の取得を目指した研究開発の指針などの提起を行っております。

知的財産業務における社外機関との連携

当社のようなベンチャー企業にとっては、国内外の大学などの学術機関や製薬企業などとの連携が極めて重要となります。当社は、知的戦略グループを中心に、大学の知財部やTLO(技術移転機関)から積極的に技術導入やライセンスを受けると同時に、製薬企業や委託企業などとの業務提携や技術提供を行い、当社事業の拡大・強化に努めています。

また、グループ会社への支援を行う一方で、技術の導入も受け、双方の発展に貢献しています。さらに、顧問弁護士や弁理士、医薬コンサルタントとの協力体制のもとで、事業運営と発展に努めております。

<研究開発および知的財産組織体制>



知的財産・営業秘密管理等

顧客からお預かりした技術情報や研究材料、自社の知的財産などは、当社にとって重要なものであります。ゆえに、その管理には細心の注意を払い、経営戦略部が一元的に管理しております。また、技術情報の管理は、その取り扱いや管理方法の指針の確立に努め、社内一丸となって取り組んでいます。全社員への知的財産教育を徹底し、機密情報の漏洩防止や情報のコンタミネーションの防止に努めています。さらに、当社は、特許法第35条に規定する職務発明に関し、報奨制度・社内規定を策定し、自社内の発明を奨励するとともに、技術・情報漏洩防止を徹底しております。

リスク対応情報

2009年3月末時点において、当社に対する特許訴訟やクレームはありません。当社は、自社知的財産の管理・運営のみならず、他社知的財産の調査・監視を徹底しております。新たな研究開発を開始する前には、特許事務所等へ特許調査を依頼し、自社技術が他社の特許侵害に当たらぬよう、リスクマネジメントに努めております。

注意事項

本報告書に記載されている、当社の経営戦略、方針、計画、事実認識など、将来に関する事項の記述にあたっては、当社が現在入手している情報に基づくもので、一定の前提に基づいたものです。その前提は、経済環境、研究開発状況、競争環境等の状況に依存をするものであり、この前提が変化する結果、本報告書に記載されている、すでに実現した事実以外の事項は変更する可能性があります。また、その前提については、客観的に正確である、あるいは将来実現する、という保証はありません。

主要な特許出願リスト (2009年5月29日現在)

	特許番号	発明の名称	出願人/権利者	発明者
マウス関連	WO01/005987	トラップベクター及びこれを用いた遺伝子トラップ法	トランスジェニック	山村研一、荒木喜美
	特許第 3711367 号	ノックアウト動物	トランスジェニック 科学技術振興機構 熊本大学	井出博之、山村研一、 荒木喜美
	特許第 3713513 号	ノックアウト動物	トランスジェニック 科学技術振興機構 熊本大学	井出博之、山村研一、 荒木喜美
	特開 2007-000100	ノックアウト非ヒト動物	トランスジェニック	宮地俊、能勢博、 大里義治、橋口朋代
	WO06/016692	ノックアウト非ヒト動物	トランスジェニック 住友化学工業 住友製薬	内藤義一、須方督、 大江田憲治、井上善文
	特開 2006-006151	糖尿病治療剤スクリーニング方法	トランスジェニック 山之内製薬	山地昇、松本俊一郎、 内藤正規、鹿子島雅子
抗体・腫瘍マーカー関連	WO04/081569	腫瘍マーカーとしての N1,N12-ジアセチルスペルミン	トランスジェニック シー・アール・シー 東京都医学研究機構 東京都駒込病院	川喜田正夫、平松恭子、 高橋慶一、濱崎直孝、 山口幸二、他9氏
	特許第 3816512 号	N1,N12-ジアセチルスペルミンに対する高親和性モノクローナル抗体	トランスジェニック	長瀬勇誠、品川真吾、 川喜田正夫、平松恭子、 伊藤美香、水上洋介、 蓑田知江美
	特開 2007-119445	N1,N8-ジアセチルスペルミンに対する高特異性モノクローナル抗体	トランスジェニック	長瀬勇誠、品川真吾、 古賀華子
	特願 2008-330745	酸化修飾タンパク質またはポリペプチドに対する高特異性モノクローナル抗体	トランスジェニック 国立がんセンター総長	能勢博、橋口朋代、 尾野雅哉、山田哲司、 廣橋説雄
	特願 2009-025607	胆管癌特異的糖鎖エピトープを認識するモノクローナル抗体	トランスジェニック 熊本大学	阪口薫雄、桑原一彦、 荒木令江、坂本珠美
抗体技術関連	WO00/050611	GANP 蛋白質	イムノキック	阪口薫雄、桑原一彦
	WO04/040971	GANP 遺伝子導入トランスジェニック哺乳動物及びその利用	イムノキック	阪口薫雄

特許で保護されている主要な製品・サービス情報

発明または許諾ライセンス	製品・サービス	内容
トランプベクター及びこれを用いた遺伝子トランプ法 (WO01/005987)	TG Resouce Bank®	可変型遺伝子トランプ法によって作製されたノックアウトマウス及び ES 細胞を作製し、ライブラリーとして提供しております。
相同遺伝子組換え法 (特許第 3059481 号,特許第 3298842 号、特許第 3298864 号)	ノックアウトマウス作製受託	ノックアウトマウス作製受託業務にかかる技術、方法に関する特許のライセンス許諾を受けています。当社作製のノックアウトマウスはライセンス許諾の必要がありません。
夜型モデルマウス (特開 2003-70376)	Clock マウス販売	産総研・生物時計グループで樹立された「夜型モデルマウス」のライセンス許諾を受け、販売しております。
GANP タンパク質 (WO00/50611) GANP タンパク質導入トランスジェニック哺乳動物及びその利用 (WO2004/040971)	各種抗体製品の製造・販売	GANP マウス技術により、GPCR・癌・メタボリックシンドロームなどの研究ツールとして市場性の高い抗体製品を自社開発・販売しております。

お問い合わせ先
神戸研究所：〒650-0047 神戸市中央区港島南町 7-1-14
TEL:078-306-0295 FAX:078-306-0296
URL : <http://www.transgenic.co.jp>



問い合わせ先
株式会社トランスジェニック
IR・広報担当
〒650-0047 神戸市中央区港島南町 7-1-14
TEL:078-306-0590 FAX : 078-306-0589